調査等事項報告（団体報告：産業厚生常任委員会）

| | |
|---|---|
| 視察先 | 愛知県南知多町役場 |
| 対応者 | 議長　石垣菊蔵 様、成長戦略室長　山本剛資　様<br>成長戦略室主任主査　堤田健太　様、議会事務局長　田中達也　様 |
| 視察日時 | 令和５年５月15日(月)午後１時30分～午後３時30分 |
| 視察項目 | 空き家バンクと移住定住の取り組みについて |
| 視察者 | 細矢清隆、犬飼　司、秋葉新一、大山正弘、菊池貞好、高橋菜穂子、<br>高橋卯任、吉田　創 |
| 報告者 | 菊池貞好 |
| 視察の内容 | 愛知県南知多町役場において、「空き家バンクと移住定住の取り組みの共有」をテーマに、南知多町における空き家問題について担当職員より説明を受けました。<br>南知多町も例外に漏れず、３万人弱だった人口が３０年間で１万６千人まで減少しており、同時に少子高齢が進んでいるようです。風光明媚な立地でも、観光目的で訪れる方は多いが、移住定住となるとなかなか進んでいないようです。<br>空き家バンクには、家屋だけでなく空地も登録されているようです。今、南知多町で空き家対策事業に取り組んでいるのが、「官民共創」による対策事業です。<br>一つ目の対策事業は、物流企業のネットワークによる見守りサービスです。遠方に居住する所有者の満足度は有効であるが、現状では収益性が低いことが課題のようでした。<br>二つ目は、空き家内の不要な動産をリユース・リサイクルに生かすことで、片づけに係る費用の削減を目指すことです。現在、モデル物件の調達作業中で、実証実験はまだ実施されていないようです。<br>三つ目は、空き家解体費用をシュミレーションし、株式会社クラッソーネと連携協定することで、所有者が無料一括見積サービスを利用して「特定空き家」の除却促進を推進する事業であり、現在、成果が上がっているようでした。<br>南知多町の「官民共創」は、本市の空き家問題解決に向けての足掛かりになるのではないかと考えられますので、今後も、この対策事業の推移を注視していきたいと考えます。 |

調査等事項報告（団体報告：産業厚生常任委員会）

| | |
|---|---|
| 視察先 | 三重県津市　一般社団法人三重県障がい者就農促進協議会 |
| 対応者 | 代表理事　中野和代 様、事務局長　西谷嘉修　様 |
| 視察日時 | 令和 5 年 5 月 16 日(火)午前 9 時～午前 10 時 |
| 視察項目 | 農福連携の取り組みについて |
| 視察者 | 細矢清隆、犬飼　司、秋葉新一、大山正弘、菊池貞好、高橋菜穂子、<br>高橋卯任、吉田　創 |
| 報告者 | 秋葉新一 |
| 視察の内容 | ◎事業導入目的とその背景について<br>　2015 年当時、三重県は障がい者雇用が全国最下位だった。<br>　そこで、県では「共に生きる」社会をつくる障がい者自立支援プロジェクトを立ち上げた。具体的には、農林水産部の施策「農福連携による就労支援の促進」であった。農家や農業経営体と就労を希望する障がい者とのコーディネートをするため、中野代表を中心に、同年、三重県障がい者就農促進協議会を設立した。<br><br>◎農家とのマッチングの仕方、状況、課題について<br>　受け入れる農家は、障がい者で本当に大丈夫かという不安があり、また、障がい者からは自分にできるのか不安という声があった。<br>　相談や一緒に考え指導してくれる中間支援者が必要。「農家ジョブトレーナーの養成」に取り組み、現在 600 人となった。<br>　特別支援学校との連携、施設外就労のマッチングと支援、農福連携マルシェの開催、新商品の開発と、積極的に事業を推進。<br><br>◎まとめ<br>　障がい者が外に出て体を動かし、作業することは、身体によい。例えば、草取りなどは成果が見えて達成感がある。自分にできる作業はずっと続けられるため報酬もついてくる。生き生きとして真面目に作業する姿に感銘を覚えた。農業の持つ力は素晴らしいと改めて感じた。<br>　本市には県立村山産業高等学校、そして県立楯岡特別支援学校がある。就職先、そして雇用に繋がるような方法を、これからも関係機関と相談しながら模索していきたい。 |

調査等事項報告（団体報告：産業厚生常任委員会）

| | |
|---|---|
| 視察先 | 三重県鈴鹿市　社会福祉法人 朋友（わか菜の杜、Cotti 菜） |
| 対応者 | 理事長　伊藤良一　様 |
| 視察日時 | 令和 5 年 5 月 16 日(火)午前 10 時 40 分～午後 1 時 |
| 視察項目 | 農福連携の取り組みについて |
| 視察者 | 細矢清隆、犬飼　司、秋葉新一、大山正弘、菊池貞好、高橋菜穂子、<br>高橋卯任、吉田　創 |
| 報告者 | 秋葉新一 |
| 視察の内容 | ◎就労継続支援 B 型事業所「わか菜の杜」<br>15 種類の野菜の水耕栽培、集荷（JA 直売所等）<br>1 か月 150 万円の売り上げ、B 型定員 10 名<br><br>・諸経費が高騰しているが、商品に価格転嫁できない。<br>・障がい者が作った野菜としてだけでは付加価値がつけられず、一般農家との競争になっている。<br>・雪が降らないため一年中野菜を作ることができる。<br>・B 型であるため、商品の売り上げの中からしか工賃を出せない。<br>・水耕栽培は衛生的で商品がきれいであった。<br><br>◎Cotti 菜（就労継続支援 B 型事業所）<br>・「わか菜の杜」の自家農園で育てた、安心・安全、新鮮な野菜を使用したお弁当、惣菜、野菜物販、配達、イートインで食事も楽しめる。<br>・障がい者の中にパティシエになりたかった方もいた。パンやパウンドケーキ、新商品。プチレモンケーキは美味でした。<br>・野菜が新鮮で、栄養の取れたメニューで繁盛しており、従事者の笑顔に癒された。<br>・農業とカフェ運営等の飲食業に取り組むことにより、障がい者が好きな作業、得意な作業を選択することができ、高収入が得られる組織づくりに取り組んでいる伊藤理事長に敬意を表します。<br>・当委員会でも何ができるか、さらに勉強・検討を重ねていきたい。 |

調査等事項報告（団体報告：産業厚生常任委員会）

| | |
|---|---|
| 視察先 | 三重県桑名市　桑名福祉ヴィレッジ |
| 対応者 | 社会福祉法人桑名市社会福祉協議会<br>　多世代共生課長・児童発達支援センターらいむの丘センター長<br>中川義文　様<br>　多世代共生課主幹・らいむの丘ハイム施設長・らいむ総務係長<br>伊藤ミユキ　様<br>　桑名市健康福祉部福祉総務課長　新井崇史　様 |
| 視察日時 | 令和５年５月 16 日(火)午後２時～午後４時 |
| 視察項目 | 多世代共生型施設 桑名福祉ヴィレッジについて |
| 視察者 | 細矢清隆、犬飼　司、秋葉新一、大山正弘、菊池貞好、高橋菜穂子、高橋卯任、吉田　創 |
| 報告者 | 大山正弘 |
| 視察の内容 | 　子どもから高齢者まで、また障がいの有無に関わらず年代を超えて共に支え合う、「新しい福祉のかたち」の実現をめざす「桑名福祉ヴィレッジ」を視察してきました。<br>　市長の公約として「新福祉のかたち」を実現したもので、市が５億９千２百万円、社協が１８億４千万円を負担し、建物面積 9,428 ㎡、公園 10,197 ㎡の施設でありました。<br><br>目指すこととは<br>１．利用者の生活拠点となる「すまいのエリア」<br>　ひとり親家庭や高齢者の暮らしを支える施設があり、移転前の施設に比べ設備が充実し、それぞれの施設の良さを共有し合えるようすること。<br>　シルバーサポート、らいむの丘ハウスの食堂からは、保育園の遊戯室の様子を見ることができるようになっており、日々の生活の中で、子どもたちから元気な姿が見える。<br>・らいむの丘ハイム(母子生活支援施設)<br>　　18 歳未満の子どもを養育しているひとり親家庭などが、子どもと一緒に利用できる施設。<br>・シルバーサポートらいむの丘ハウス(養護老人ホーム)<br>　　身体・精神・経済的な理由などで、自宅での日常生活が困難なおおむね 65 歳以上の人が暮らす施設です。<br><br>２．さまざまな立場の人が通い、交流する「かよいのエリア」<br>　子どもから高齢者、障がいのある人まで、さまざまな人が通う施設があります。子どもたちが、年齢や障がいの有無に関わらず、自然な交わりの中で過ごせる環境をめざす施設。<br><br>３．障害福祉サービスや、介護保健制度の利用に必要な計画を立てる事業所もあり、障がいのある人が高齢者になった際にも施設内で連携し、途切れのないサービスを受けることができます。<br>　・らいむの丘保育園 |

| | |
|---|---|
| | ・ナーシングセンターらいむの丘(生活介護)<br>・児童発達支援センターらいむの丘<br>・相談支援センターらいむの丘<br>・ケアプランセンターらいむの丘<br><br>４．施設の利用者やその家族だけでなく、誰もが気軽に訪れることができる「ヴィレッジセンター」と、食料品や日用品、ハンドメイドのアクセサリーなどの販売を行う「らいむショップ」があります。<br>　ヴィレッジセンターの１階は交流ラウンジ、２階は地域住民の交流や社会福祉の増進などを目的に利用できる会議室となっています。<br>・らいむショップ<br><br>５．既存林を生かした緑あふれる広場「ヴィレッジ公園(やまざきパーク)」<br>　芝生広場と散策路からなる公園。ヴィレッジ公園の愛称「やまざきパーク」は、福祉ヴィレッジに移転される前の福祉施設の土地が、戦後まもなく山﨑氏から寄付を受けたことに由来しています。そのご意思に敬意を表し、またこれまで行ってきた福祉サービスを、この福祉ヴィレッジで引き継ぐという意味を込め名付けました。<br>・芝生広場<br>　既存林を生かしつつ適度な植栽を行い、身近に自然を感じられる公園です。大変見事な施設と、住みやすい施設、交流のある施設、緑に囲まれた自然を重視した施設でした。<br><br>　総評として感じたことですが、大変広大な土地と施設は見事でありました。しかし、感じたこととして大きなリスクもあります。職員の確保、人件費の維持、将来の利用者の増減、維持管理費用の拡大が市民負担と福祉協議会との連携をどのように密にするかが大きな課題と感じました。村山市に需要性を考えれば施設の大きさの管理と維持管理が難しい、特に豪雪と、人口減少に伴う村山市内の現状を見ますと大変厳しいと感じました。 |